

放浪のデニム

レイチエル・ルイズ・スナイダー著
矢野野葦訳



シーンを入り口にグローバル経済を語った本。そう書くと、国家間の経済格差が生む搾取の構図を暴いたルポと取られそう。確かにアゼルバイジャンの綿畑で農民たちが農薬にさらされている実態を伝えているし、カンボジアの衣料工場で賃上げを求める人たちの話も出てくる。

もっとも、カンボジアでも中国でも企業は労働環境を改善し、賃金も適正な額を支払うようになってきた。買う側の意識にフェアな製品を求めようとする気持ちが生まれ、企業の態度を改めさせた。

不況の中で安さ以外の価値を尊ぶ気持ちを持ち続けるのは難しい。中国の台頭が他の生産地を押しつぶす可能性もある。そうした問題への解決の糸口があるとしたら、誰が何を考え、シーンを作っているかを知ることだ。

▷2100円、エクスマレッジ

「何を考え作っているか」を知る

いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ

吉川洋著

基礎なしに理解できる両雄の説



ケインズとシュンペーター。経済学の知識がなくても、この2人は知っているという人は多い。

ケインズが生み出した経済学は、好不況の波を人為的に少なくするにはどうすればいいのかを説く。その手法は80年前、世界恐慌下の米国で有効需要を創出するための取り組み「ニューディール政策」として実践され、不況脱出に威力を発揮した。

一方、同時代を生きたシュンペーターは、技術などのイノベーション(革新)こそが資本主義経済の原動力だと説き、世界の企業経営者から今でも人気がある。

両学説には欠点もある。しかし、100年に1度といわれる不況を前に、学ぶ価値も大きい。本書はその理由を経済学の基礎がなくても理解できるようまとめている。

▷1890円、ダイヤモンド社

上司の教科書 石山恒貴著



管理職向け問題解決へのヒント

いつの時代でも中間管理職はつらい。最近では、組織のフラット化により管理職自らもプレーイングマネジャーとして目標数値を達成しなければならないし、さらには、セクハラやパワハラ、メンタルヘルスへの気遣いも必要だ。

こうした新たな管理職受難の時代を受け、本書では、「部下と自分を幸せにすることがカギ」と訴え、それを実現するための具体的方法を提示している。

著者は、NEC、GE(ゼネラル・エレクトリック)と、日本企業と外資系企業で一貫して人事労務関係を担当し、日々発生する問題と向き合ってきたスペシャリスト。

職場で悩みとストレスを抱える管理職諸氏には、問題解決のヒントを得るためにも、ぜひとも読んでいただきたい。

▷798円、洋泉社



シコフンジャオウ 元一ノ矢著

「相撲の基礎運動」を楽しく紹介

大相撲の戦後最年長力士として知られ、46歳まで現役を続けた元三段目の一ノ矢こと松田哲博さんが相撲の基礎運動であるしこを紹介している。

国立の琉球大学出身という、力士としては珍しい経歴の持ち主である松田さんは、現役時代から「相撲の探求」をテーマにしこ、また割り、てっぽうなどを考察し続けた。

女性モデルの実演写真を用い、しこの正しい踏み方のほか、松田さんと筑波大学の白木仁教授の対談では、しこによる健康法も記している。

松田さんが力士になるまでの経緯や背が低いためにいくつかの部屋から入門を断られた話などをユーモラスに描写。男女を問わず大人から子供まで楽しめる1冊だ。

▷1365円、ベースボールマガジン社